なめがた大使 小林光恵さん 書きおろしエッセイ

五感でキャッチ！なめがた漫遊記 第30回

しとしと雨の日の午後に

被害を心配した大雨の後、秋雨と呼ぶにふさわしい、しとしと雨が降り出し、その二日目の午後、一篇の詩を思い出した。フランスの詩人ポール・ヴェルレーヌの日本でも有名な『巷に雨の降るごとく（堀口大學訳）』だ。出だしはこんなふうだ。

巷に雨の降るごとく
わが心にも涙降る。
かくも心ににじみ入る
このかなしみは何やらん？

この詩を初めて読んだ少女時代、この、とてもシンプルな言葉たちの組み合わせが、一生忘れないだろうすごい表現になってる！と感動したのだった。巷に雨がずっとずっと静かに降り続け、私の心にも同じように涙が降り続け、その涙がたまったなら、どれくらいの量になるんだろう、鮫の水槽くらい？いや霞ケ浦くらい？それはあり得ない、なんてばかなことも考えたりした。

そういえば、中学の時に同じクラスだった男子A君が口にした言葉を、今も覚えている。

「涙の無駄遣いをしてはいけません」

それは、何時間目かの授業が終わり、休み時間になる瞬間だった気がする。誰に言うでもなく、しかし独り言にしては声を張っていたから、そばの席だった私にもはっきりと聞こえたのだ。それにしても、わかるようなわからないような、深いようなそうでもないような。歌謡曲に出てきたくだりだった？わからない。

A君は、給食に付いてくる2センチメートル四方くらいのマーガリンを、パンに塗らないで、キャラメルのようにそれだけを口に入れて食べる人だった。名前や顔はどうしても思い出せないけれど、小柄で華奢だった。

たこ八郎さん（昭和時代に活躍した、元ボクサーのコメディアン）は、テレビ番組「笑っていいとも」の放送中にふらりと現れ「巷に雨の降るごとく」の出だしの五行をそらんじたことがあった。A君は、たこさんの背格好に少し似ていた気がする。

雨の日の行方市のおでかけスポットをAIに尋ねてみたら、八つのおすすめを提示してくれて、そのなかに吉崎美術館があった。知らなかった。やはり、行方を知らな過ぎる私です。カフェを併設しているというこの私設美術館を、小雨降る午後に訪ねてみたくなりました。

小林 光恵さん

道端の少しのコスモスが花をつけているのに遇うと、そのコスモスに御礼を言いたくなります。

行方市出身。つくば市二の宮在住。
サンマを3年、いや5年くらい食べていません。煮て調理したサンマが好きで、1尾や2尾ではなく、最低4～5尾は一緒に煮たいけれど、気軽に何尾も買える値段ではなくなりましたから。

市公式ホームページ内で「行方帰省メシ」連載中。
サイトはこちらから▶

地域おこし協力隊 連載コラム㉚

令和5年11月から始まった地域おこし協力隊の3年間の任期が、10月末をもって満了となりました。8月には、新規就農の初期投資を抑えるため、研修先の農家から提供いただいたビニールハウスで栽培槽制作が完了し、業者に施工依頼をした場合の金額の5分の1程度に抑えられる結果となりました。これまで農地の案件を市民の方や関係各所の皆さんからいただきましたが、中東情勢悪化によるナフサ不足の影響で、農業資材の流通停滞と急激な価格高騰の影響が大きく、任期終了のタイミングでの就農は見送らせていただくことになりました。

先月には、大麻神社例大祭とタイアップする形で、行方朝市を開催したり、同時に麻生公民館ギャラリーで大麻神社例大祭の山車の写真の展示をしたりと、最後に花を持たせていただきました。

任期中、市民の皆さんと市職員の方々のお力添えのおかげで、充実した活動ができました。行方市で学ばせていただいた農業の知識や、地域活動の経験を地元に戻って生かして、就農の道を模索していきます。行方市を離れることにはなりますが、これからも行方市のファンとして、行方市の魅力を発信していきたいと思います。3年間、ありがとうございました。

（次号は、ダシカ隊員が担当します。）

▲佐藤 晶 隊員

【令和5年11月1日～現職】
新規就農を目指し農業に従事するほか、市の農業を盛り上げるためのPR活動等を行う。マルシェ等の企画提案も実施。

▲ 朝市の様子

▲ ギャラリー展示

▲ 第3回行方朝市チラシ

▲ 試験区栽培槽完成

▲ 試験区生育過程